
思考の最果てへ、ずもりずもり。

ハルメク

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

思考の最果てへ、ずもりずもり。

【Nコード】

N8129A

【作者名】

ハルメク

【あらすじ】

思索をすると行き着ける思考の最果て。そこは無であり死であり自由だった。

ずもりずもり（思索が進んでいく音だ。俺にはこつ聞こえた。粗末な擬音だ）。

俺は深い思索の旅を続けていた。

ずもりずもり。

しかし、何度思索をしても、行き着くところはおんなじだった。

死だ。

何もかも、段階なんて関係なく、俺の思考は死へと向かっていく。それは思考の最果てだ。行き着けばただ、真つ白な空間が広がるだけの、無しかない場所。俺はそこが心地よかった。普通なら自分の記憶の中にある情報と情報が思索を続けているうちに連結しあい大きな球体（悩みとも言つ）を形成してしまうのだが、そこにはただ無があるだけなのだ。

死イクオール無イクオール自由。

そんな論理が俺の中で出来上がっていた。

ずもりずもり。

ずもりずもり。

俺は今日も思索をしていた。あてもなく自分の頭の中の世界をさ

まよう。

異変はすぐだった。

記憶が、どんどん湧き上がってきたのだ。

ぼこぼこ泡のように、様々な記憶が蘇ってきた。

幼稚園で押しピンを踏んだこと。

女の子に苛められたこと。

高熱が出て死にかけたこと。

負の思い出ばかりだ。その情報通しが連結しあい球体を作り上げていく。情報連結が半端なく多い。これは、今まで見たことのない球体だ。

「！！」

その時、揺れを感じた。何か、大きなものが湧き上がってくるのだと、俺は感じた。

その大きな何かが現れた。

これは……。……。……。ああ！！これは！

いやだ、イヤだ！ ああ！……………

……………

「xxxxxxxxxx」

「xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx」

球体は最後に出てきた情報と連結し、巨大さを増した。

そして、その巨大な球体は俺めがけて突進してきた。俺は思考の深くへと逃げた。必死に逃げた。

ずもりずもりずもりずもりずもりずもりずもりずもりずもりずも

りずもりずもりずもり。ずもりずもりずもりずもりずもりずもり。

気がつくと、思考の最果てにいた。

俺は戻るのが怖かった。

ここにずっといようか、と思った。

だんだんとじぶんのしこうのりんかくがとけていくのをかんじた。
それはとてもとてもこちよいかんかくだった

おれはじゆ

うにな

れ た

(後書き)

ずもりずもり(進行中)。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8129a/>

思考の最果てへ、ずもりずもり。

2010年11月14日14時51分発行